

道北フォトツーリズム推進事業

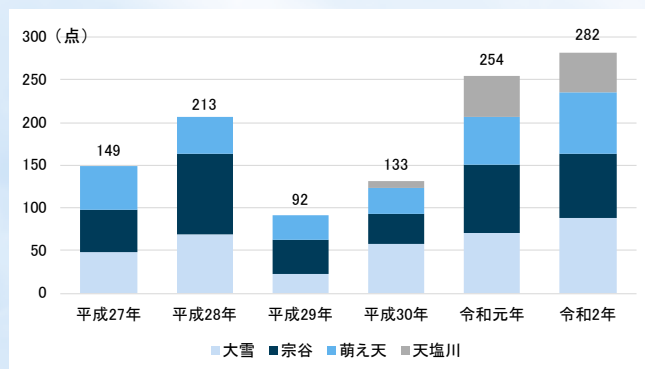
～フォトツーリズムで、きた北海道周遊！～

シーニックバイウェイ北海道 道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会

1 活動の背景と目的

当実行委員会は、シーニックバイウェイ北海道「大雪・富良野ルート」「宗谷シーニックバイウェイ」「萌える天北オロロンルート」「天塩川シーニックバイウェイ」の4ルートの超広域道北連携事業として、平成26年度から「道北ルート連携フォトコンテスト」（以下、「連携フォトコン」）を継続的に実施してきました。

道北4ルートは、美瑛の田園風景・宗谷の広々とした丘陵風景・真っすぐなオロロンラインの海岸線・ゆったりと流れる天塩川の水辺の風景といった北海道の自然景観・産業景観が凝縮されたエリアです。これらの景観資源の写真撮影を目的に道北地域の周遊観光を促すことを目的とし「連携フォトコン」を開催してきました。



応募作品数の推移

過去5年間で延べ156名から合計700点以上の作品の応募があり、一時応募数が落ち込むこともありましたが、最近では右肩上がりに応募数が増えています。フォトコンテストによって、この地域の景観への関心が向けられ、多くの美観が発掘されました。

一方、近年、スマートフォンや安価な高性能カメラが普及し、かつSNSなどで友人たちと画像を手軽に共有することが一般的になってきました。当実行委員会では、このような写真撮影人口の裾野の拡がりに対応することで、より道北への誘客や滞在が見込まれると考え、過去のフォトコンテストの受賞作品を掲載した

フォトブックを作成し、ライトな写真愛好家にも支持される「道北フォトツーリズム」（主に道北地方の景観資源を撮影する個人旅行）を提案することを目標に本助成事業に応募申請いたしました。

2 フォトブックの作成

フォトブックの作成は、令和元年10月末から令和2年6月中旬で計3回の検討会を通して、内容を固めていきました。たくさんある過去の受賞作品のどの写真を厳選するか、どのようなデザインや書名にすればライト層にも手にとってもらいやすいか、掲載作品についてどのような情報があると読者に親切か、など丁寧に検討しました。途中、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、オンラインでの検討会に切り替わったりもしましたが、リモートによる地域間のコミュニケーションも徐々に慣れ、スムーズになっていきました。



令和2年1月30日
第2回検討会



令和2年6月10日
第3回検討会

苦勞の末、令和2年8月中旬に『写真で巡る北海道の旅〈きた北海道編〉』と題し、フォトブックを6,000部発行し、各ルートの道の駅・観光協会・観光施設、フォトブック内での立寄り施設、青函フェリー・トヨタレンタリース（シーニックバイウェイ北海道包括連携協定企業）での配架依頼や作品掲載者への寄贈より、道内各地に配布することができました。



フォトブックの表紙



各ルートのメイン写真

3 フォトブックの特長

作成したフォトブックは以下の点を工夫しています。

- ① 親しみやすい表紙
- ② フォトコンテストへの二次元コードによる誘導
- ③ 文章を最小限にし、写真をメインにする
(各ルート10枚までとし写真を厳選)
- ④ 撮影マナーの紹介
- ⑤ マップコードで撮影地近辺までを誘導する
- ⑥ ルート内の立寄り箇所も紹介する

4 フォトブックの効果検証

本フォトブックが道北地域への読者の関心を惹きつけられるかどうかの効果検証をウェブアンケートによって行いました。アンケートの対象は、本フォトブックを手にとった読者としましたが、新型コロナウイルスによる影響から道北来訪者が激減し、回答者数は24件と伸び悩みました。

アンケート結果は、以下簡単に記したいと思います。ご回答のあった6割以上は女性です。また年齢層も20～30代が4割を占め、フォトブックの読者ターゲットからの回答を得ることができました。

写真撮影をするときの撮影機材は、9割以上がスマートフォン内蔵カメラ、次点がデジタル一眼レフカメラで3割を占めました。近年の撮影方法では、スマートフォンに大きく傾いていることが読み取れます。

「本誌を読んで、掲載されている地域や撮影場所を訪れてみたいと思いませんか？」の質問に対しては、8割以上が「思った」という回答を占め、フォトブックが当該地域への来訪意欲を底上げするツールとして活用できる可能性を確認しました。一方、「本誌を読んで、掲載されている写真をご自身でも撮影してみたいと思いませんか？」の質問に対しては、「思った」が6割程度に留まったことから、掲載されている写真は高度な撮影技術が必要で、「訪れてみたいけど、自分の技量では同じような写真を撮影するのは難しい」と考えたのかもしれない。今後、気軽なフォトツーリズムを提案するためには、撮影技術の解説などといった工夫も必要かもしれません。

「どのような情報が掲載されていれば、より読者の

役に立てると思うか？」の質問に対しては、「おすすめの写真撮影コース」が6割近くを占め、次点に「撮影テクニックの解説文」「これまで撮影の対象になっていなかったような穴場の撮影スポット」が挙げられました。今後のフォトブックの改良点として、「おすすめの撮影ルート」や「撮影テクニック」などの追加情報を掲載していきたいと思います。

また、本フォトブックを200円（税別）と想定し、希望購入価格も尋ねました。回答者のうち「500円」が最も多く、平均値は379円でした。

5 今後の展望

平成26年度から継続的に実施している「連携フォトコン」を通して応募のあった過去5年間合計700点以上の作品を掲載したフォトブックを作成することで、ライトな写真愛好家にも支持される「道北フォトツーリズム」を提案し、道北地方への誘客に資する知見を得ることを目的に本事業を実施しました。フォトブックは計6,000部を印刷し、各ルート内の道の駅や観光施設をはじめ、道内に配布することができました。

コロナ禍の影響で令和2年8月中旬に発行時期がずれ込んでしまいました。コロナ禍（コロナ禍以降）の旅行形態として団体旅行よりも個人旅行が主流となってきたことから、フォトブック自体やフォトツーリズムの今後の需要は高まっていくと思われます。

アンケート調査において、ツールとしての可能性が確認されたフォトブックですが、改良すべき点も把握され、今後の改訂で活かしたいと考えています。

事業の継続の一番の課題は、資金調達と考えます。フォトブック自体を販売しつつ、例えば広告収入などで印刷経費を工面することが考えられますが、今後慎重に検討する必要があると思います。

最後に宣伝になりますが、フォトブック事業の背景となった連携フォトコンは、令和3年度も継続開催いたします。ぜひ、道北地域の景観資源に写真撮影という形で親しんでいただければ幸いです。

引き続き、道北地域の地域振興に向けて各ルートで連携し、取り組んでいきたいと思っています。



「道北ルート連携フォトコンテスト2021」は、こちらから。